潰瘍性大腸炎患者の血液培養から *L. monocytogenes* を分離した一症例

微生物検査室から迅速に報告が出来たことにより治療が奏功した症例

◎和田 直樹[1)]、三浦 美香[1)]、加藤 翔也[1)]、佐藤 未侑[1)]、堀尾 瑠奈[1)]
医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院[1)]

【はじめに】*Listeria monocytogenes*（*L. monocytogenes*）は，ヒト，種々の動物に認められる人獣共通感染症で，動植物を始め自然界に広く分布している，通性嫌気性無芽胞グラム陽性桿菌である。ヒトの感染症として乳幼児，妊婦，高齢者，細胞性免疫不全患者に細菌性髄膜炎，敗血症などの重篤な感染症を引き起こす。今回我々は，潰瘍性大腸炎患者の血液培養から *L. monocytogenes* を分離し，微生物検査室から迅速に情報発信したことにより治療が奏功した症例を経験したので報告する。

【症例】患者：77 歳女性，主訴：発熱，体動困難，意識混濁，既往歴：潰瘍性大腸炎，卵巣脳腫，子宮筋腫，現病歴：20XX 年 10 月，発熱，体動困難，意識混濁より当院救急搬送され入院となった。また，今回の入院 3 日前まで潰瘍性大腸炎の治療のため，当院に入院していた。

【微生物学的検査】入院当日に血液培養 2 セット，喀痰培養，尿培養が提出された。血液培養は 2 セット 4 本が最短 24 時間 09 分に陽転した。陽性ボトルのグラム染色はグラム陽性桿菌を認め，*L. monocytogenes* を推定，また、同時に検査した FilmArray®血液培養パネルから *L. monocytogenes* が検出された。サブカルチャーは 5%羊血液寒天/チョコレート寒天分画培地を 5%炭酸ガス培養、BTB 乳糖加寒天培地を好気培養，ブルセラ HK 寒天培地を嫌気培養し，24 時間培養後，5%羊血液寒天培地にβ溶血の集落を形成，集落の同定は MALDI-TOF MS を使用し *L. monocytogenes* と同定された。薬剤感受性試験は ABPC，ST 合剤が感受性であった。

【臨床経過】入院当日より ABPC +CTRX +VCM の点滴静脈注射，MNZ の内服で治療を開始，PCR で *L. monocytogenes* が同定後，ABPC の用法用量は髄膜炎を想定したものに変更，第 23 病日に経過良好のため退院となった。

【結語】潰瘍性大腸炎患者の *L. monocytogenes* 菌血症の報告は少なく，貴重な症例を経験する事が出来た。本菌は，髄膜炎，菌血症など原因菌の一つで，重症例は死亡率も高率となっているため，PCR による同定，適切な治療開始が有用と考えられた。連絡先：011-890-1610